



鈴木 勝彦 議員

平成30年度 予算編成に向けた 市政クラブの 政策提言について

問 平成30年度予算の基本的な考え方は！

答 高浜市長期財政計画では、平成30年度からの10年間で170億円の普通建設

事業が見込まれ、高浜小学校整備事業を始めとする大規模改修の時期が集中し、財政運営が厳しくなる転換点と捉えています。こうした財政需要を乗り越えて、限りある財源をその先へ繋ぐスタートの年であり、加えて第6次高浜市総合計画を第7次へと、「未来へ繋ぐスタート予算」と位置付け、メリハリを付けた予算編成に取り組んでまいります。

問 高浜市総合計画・基本目標Ⅰ～Ⅳを問う。

答 基本目標Ⅰ「みんなで考え みんなで汗かき みんなでまちを創ろう」では、滞納整理システムを構築し「徴収率の向上」、「行政内部事務の省力化」、「情報発信の強化」、「公共施設

総合管理計画の推進」に取り組んでいきます。

基本目標Ⅱ「学び合い 力を合わせて 豊かな未来を育もう」では、待機児童ゼロに向けた取り組みとして、平成31年4月オープンを目指して高取幼稚園と保育園の民営化及び認定こども園化や産後無料検診の実施など「安心な子育て環境事業」の整備を行います。各小中学校の「教育環境の向上事業」では、電子黒板の設置の完了やICT機材の購入など「ICT教育事業」に取り組みます。

基本目標Ⅲ「明日を生み出すエネルギー やる気を活かせるまちをつくろう」では、「企業誘致・産業振興事業」では官民一体で環境整備を防災では新型Jアラートの整備、災害用資機材の整備など「防災力の強化」に取り組みます。

基本目標Ⅳ「いつも笑顔で健やかに つながり100倍ひろげよう」では、医療と介護の連携や認知症初期集中支援事業を実施し「地域包括ケアシステムの構築に繋げる事業」に取り組みます。今後の行財政運営では、人工知能の発展やIoTの普及など、猛烈なスピードで変化する時代を予測して、将来を見据えアンテナをしっかりと張り、ネットワークを広げて当たります。



幸前 信雄 議員

保育園の 待機児童対策について

問 来年度、保育園に4月に入園できない方が、どれくらい出てしまうのか。

答 入園申し込みが今年より13人多く、今年の待機児童17人を上回ることが予想される。特に1歳児で

は、新規受入れ予定数89人に対し、申し込み数が126人と、大幅に上回る状況。

問 保育事業優先順位は、保育の質の確保、待機児童対策、兄弟が別の園に通園、出産後の育休中の3歳未満児が退園せずに保育園に通園できることと考えるが。

答 保育士をしっかりと確保し、待機児童が解消されるのが当面の課題。兄弟が別の園に通園については、夏ごろに転園希望を確認し、可能な範囲で少しずつ解消。育児できる環境の方は、家庭で一緒に過ごしていただきたいと考える。

問 保育園への入園希望者はどのように計画され、実績との乖離があれば、計画の見直しはど

うなっているのか。

答 「高浜市子ども・子育て支援事業計画」で1・2歳児の保育の必要数が、平成27年度の364人をピークに、平成31年度に313人に減少すると見込み、定員を319人で計画。平成29年度は385人の申し込みがあり、結果を踏まえ、計画の見直しをしていく事も考える。

「高浜市公共施設総合管理計画」に関連した 市民との対話について

問 「中央公民館の賛否を問う住民投票」について、何故このようなことになったと考えているか。

答 公共施設の再編・最適配置の取組みは、中央公民館という個別の施設の視点でなく、市民サービス全体を考えた視点が背景で、そのことをご理解いただくのに時間を要したと考える。

問 職員の意識は統一されていたのか。

答 全庁的に取組むべき最重要課題として、市長・副市長並びに市幹部が質問に答える体制で行った。

